

## 【参考1】 Umicore (ユミコア社；

現在、Zinifex と亜鉛製錬・合金部門の統合・分離手続中)

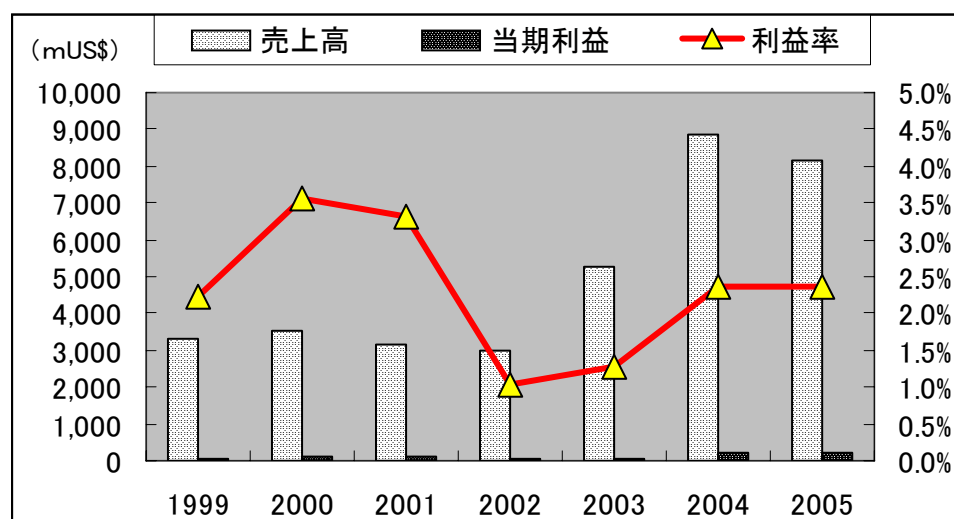
### 1. 企業概要

本社	ベルギー・ブリュッセル
主要事業〔鉱種〕	非鉄金属製錬・加工・リサイクル回収〔Pt,Pd,Rh,Au,Ag,Zn,Pb,Ni,Co,Ge,In〕
従業員数	約 14,000 人(35 カ国)
決算日	12 月末日
関連企業	※世界 28 カ国に 61 社。

### 2. 財務状況 (mUS\$: k Euro 決算データ(下段()内の斜体数値(k Euro))を年平均レートで US\$に換算)

年度	2005	2004	2003
売上高 Revenues〔①〕	8,166 <i>(6,566,531)</i>	8,834 <i>(7,115,280)</i>	5,279 <i>(4,677,082)</i>
当期利益 Net earnings (loss)〔②〕	192 <i>(154,627)</i>	209 <i>(168,316)</i>	68 <i>(60,122)</i>
利益率〔③=②/①〕	2.35%	2.37%	1.29%
資産 Total assets〔④〕	3,652 <i>(2,936,926)</i>	4,059 <i>(3,268,826)</i>	3,509 <i>(3,108,662)</i>
流動資産 Current assets	2,175 <i>(1,748,525)</i>	2,338 <i>(1,883,040)</i>	1,914 <i>(1,696,184)</i>
負債 Total liabilities〔⑤〕	2,390 <i>(1,921,503)</i>	2,452 <i>(1,975,123)</i>	2,163 <i>(1,916,703)</i>
流動負債 Current liabilities	1,577 <i>(1,267,997)</i>	1,435 <i>(1,155,860)</i>	1,641 <i>(1,453,778)</i>
純資産〔⑥=④-⑤〕	1,263 <i>(1,015,423)</i>	1,606 <i>(1,293,703)</i>	1,345 <i>(1,191,959)</i>
為替レート(Euro/US\$(年平均))※	<b>0.8041</b>	<b>0.8054</b>	<b>0.8860</b>

※為替レートは IFS: International Financial Statistics による。



Umicore: 売上高、当期利益、利益率の推移

### 3. 生産状況

年度	2005	2004	2003	'05年のランキング等
亜鉛鉱(kt) ※47%権益分	24	17	16	
Mae Sod(タイ,100%ベース)	51	40	37	
亜鉛地金(kt) Auby+Balen+Tak(※47%権益分)	476	568	553	第4位(4.7%)
Auby(フランス,100%)	207	260	225	
Balen(ベルギー,100%)	222	257	275	
Tak(タイ,100%ベース※)	100	109	114	
鉛地金(kt) Hoboken(ベルギー,100→0%)				
粗銅(kt)		227	233	
Pirdop(ブルガリア,100→0%)		227	213	'04年、Cumerio社に分離
Hoboken(ベルギー,100→0%)			20	
電気銅(kt)		398	371	
Olen(ベルギー,100→0%)		343	325	'04年、Cumerio社に分離
Pirdop(ブルガリア,100→0%)		55	46	('04年:第10位(2.5%))
コバルト地金(kt) Olen(ベルギー,100%)	3.30	2.95	1.70	第4位(6.1%)
ゲルマニウム(t)	81	94	68	
PGM地金(t)				
[Hoboken(ベルギー),Hanau(独),Guaruhos(ブラジル)]	41.3	38.1		
プラチナ(t)	16.2	16.5		
パラジウム(t)	21.0	18.4		
ロジウム(t)	4.1	3.2		
金(t)				
[Hoboken(ベルギー),Hanau(独),Guaruhos(ブラジル)]	38	36		
銀(t) //	974	918		

出典:Raw Material Group、アニュアルレポート

※ 貴金属精製部門の回収・生産能力は次のとおり(アニュアルレポート):

- ・鉛:125kt、・銅:40kt、・アンチモン:3kt、・錫:1.5kt、・ビスマス:400t、・ニッケル:2kt、
- ・セレン:600t、・テルル:150t、・インジウム:30t、・砒素:1kt、・硫酸:100kt、・砕石:140kt

### 4. 沿革

Umicore は、1805年、ベルギー国内における亜鉛鉱山の利権取得が会社創立の端緒とされ、金属資源開発・加工を手掛ける企業としてこれまで200年の歴史を有する。1906～68年間の Union Miniere 時代にベルギーの植民地であった当時ザイール(現:コンゴ民主共和国)において銅、コバルト、錫、貴金属の開発により発展したがザイール政府の接収に遇い、以降は貴金属やレアメタル製錬・リサイクル、金属製品・加工品製造や触媒製造など下流部門に経営の主体を移していった。2001年には現在の Umicore に社名を変更し、2003年には大手触媒メーカーPMG社の買収をはじめとした触媒事業に注力し、2005年には中国企業の買収の一方で、銅生産部門を分離し、亜鉛生産部門の再編も検討中。

- ・1805年12月: 創業者 Jean Dony は、現在のベルギーとドイツ国境の Moresnet 地方に Vieille-Montagne 鉱山の操業権を取得した。

#### 1837～1906年: Societe Anonyme des Mines et Founderies de Zinc de la Vielle-Montagne 社

- ・1837年: “Societe Anonyme des Mines et Founderies de Zinc de la Vielle-Montagne”社設立。

#### 1906～68年: Union Miniere 社

- ・1906年: 社名を“Union Miniere”に変更。ベルギーの植民地であった当時ザイール(現コンゴ民主共和国)における銅、コバルト、錫、貴金属の開発を主に行い、“UMHK—Union Miniere de

Haut Katanga”の名称で知られた。

- ・1960年：自動車排ガス触媒の研究開発を開始。

### 1968～89年：Societe Generale de Belgique 社

- ・1968年：ザイル政府による接收(※)に遇い、新規の鉱山開発、製錬業に乗り出した。社名を“Societe Generale de Belgique”とした。

※**鉱業公社 Gecamines と鉱業の衰退**： 接收した資産は Gecamines が管理・操業し、1970年代には50万t以上の銅生産を誇り Codelco に次ぐ時期もあったが、90年代に同国内の混乱により鉱業も衰退し、2002年には年産銅量32.3ktにまで落ち込んだが05年産銅量は97.7kt(WMS)と回復の兆しが見られつつある。

※**コンゴ民主共和国(旧ザイル共和国)の内乱**： 32年間に亘るモブツ政権が1997年に崩壊、国内に武力勢力が乱立した上、鉱物利権を狙う周辺5カ国が介入して98年から本格的な内戦に突入した。南アの仲介で02年12月に和平協定が成立、03年4月に反政府勢力を取り込んだ暫定政府が発足し国連監視団の下、大統領選挙が準備され、06年7月の第1回投票で暫定政府のカビラ大統領はじめ33人が立候補したが有効投票数に達せず、10月の決戦投票でカビラ大統領が58%を取得して当選したが42%を獲得した次点のベンハ氏は選挙の不正を訴え、結果受入れを拒否している。1990年代末以降、公務員に対する給与不払い状態により公共施設は機能停止状態となっている。国別腐敗調査で最下位。(H18年11月27日付け毎日新聞「破綻国家コンゴ-汚職蔓延、富は特権層独占」ほかによる)

- ・1974年：Rheinfelden(独)で触媒生産を開始。
- ・1983年：カナダで触媒生産開始。
- ・1987年：韓国で触媒生産開始。

### 1989～2001年：Union Miniere 社

- ・1989年：Union Miniereの子会社であった、Metallurgie Hoboken-Overpelt(Cu,Pb,Co,Ge,貴金属,レアメタル)、Vieille-Montagne(Zn)、Mechim(エンジニアリング)を統合した。
- ・1990年代後半：特殊素材メーカー(貴金属、high-margin 亜鉛製品、コバルト・ゲルマニウムを主とする先進的素材)として足場を固めた。
- ・1991年：南ア、米国、日本で触媒生産開始。
- ・1992年：ブラジルで触媒生産開始。
- ・1996年：100%子会社のSogem社を通じてCentaur Mining & Exploration社が西豪州のCawse ニッケル・コバルト・金開発プロジェクトの資金・技術支援協定締結。
- ・1997年：・9月、MDK銅製錬所(ブルガリア・Pirdop)の56%権益を買収(80mUS\$)
  - ・12月、Cananea銅山(メキシコ)に関し、1990年取得していた15%の権益をGrupo Mexicoに売却。
- ・1998年：・第2四半期よりOlen銅精製所を増産ベース(年産350kt)で生産開始。
  - ・3月、Pirdop製錬所(ブルガリア)の権益比率が98%となった。
  - ・スウェーデンで触媒生産開始。
- ・2000年：・5月、亜鉛開発企業Padaeng社(タイ)の33%株式(26.7mUS\$相当)を取得。
  - ・6月、米国のレーザー光学製品メーカーであるLaser Power Corporation(本社：カリフォルニア州San Diego)を買収し、Union Miniere米国社の傘下に置き、電子光学部門とした。
  - ・10月、100%子会社Sogemを介してNorilsk Nickelと同社産のコバルトの販売会社NORGEM社をベルギーに設立。
- ・2001年：・1月、Hoboken貴金属精製所に銅のSX-EWプラントを設置(30kt/年、30m Euro)。

### 2001年～：Umicore 社

- ・2001年：・8月：“Union Miniere”から“Umicore”に社名変更。
- ・2002年：・1月、亜鉛リサイクル・合金製造メーカーであるGM Metal(仏)を買収(6mEuro)
  - ・カナダの触媒生産設備を拡張。

- ・2003年:3月、Eurotungstene 社(仏)の49%株式をSandvik 社(スウェーデン)より買収。
  - ・8月、OMグループ(米・クーブランド)の貴金属部門であるPMG社(生産拠点:独、売上高4.6b Euro、従業員3,500名)を買収し、自動車排気ガス触媒製造部門を大幅に強化した。(買収金額643mEuro≒752mUS\$)
  - (※PMG社は2001年8月、Degussa社(独:1887年来、UmicoreのHobokenプラントの株主企業であった))からOMグループにより買収されていた)
  - ・9月、触媒に関する特許権をMPI社(独)より買収。
  - ・11月、Demetグループ(独)の触媒リサイクル部門を買収。
- ・2004年:・Hanau(独)に触媒試験センター設置。
- ・2005年:・4月、銅部門を分離。Cumerio社(本社:ベルギー・ブリュッセル)が生産設備(Pirdop製錬所(ブルガリア)、Olen精製所(ベルギー)、Avellino銅加工所(イタリア))を引き継いだ。
  - ・11月、販売・貿易部門子会社Traxysの株式の80%を売却。
  - ・11月、中国の貴金属回収メーカーSuzhou Alloy社を買収。
  - ・中国にて触媒生産開始。
  - ・11月、フランスの亜鉛焼鉱・電解工場閉鎖に引き続き、その他亜鉛製錬・合金製造事業の見直し、再編の検討を進めている。
- ・2006年・1月、中国の金属ロウ付合金・銅・銀メーカーGlobal Star社(本社:揚州)及び、雲南銅公司所有の昆明亜鉛事業所(年産能力5万t)の60%の権益を取得。
  - ・5月、ダイヤモンド生産子会社のSibeka社(Mbuji-Mayi 鉱山をコンゴに有する)をMwana Africa社に売却。
  - ・12月11日、Zinifex(豪メルボルン本社)と亜鉛製錬・合金部門を統合することで覚書を交わした。亜鉛合金生産能力1.2mt/y、従業員4500名、法人登記ベルギー、本社ロンドン、支社メルボルン及びバレン(ベルギー)の予定で、Umicoreはこれにより銅製錬に続いて亜鉛製錬を分離して素材メーカーへの完全に脱皮することになる。

## 5. 事業内容

1805年以降、200年の歴史を有する同社は、1968年まではベルギーと同国の植民地であったザイールを拠点とする鉱山開発企業であった。1968年にザイールの鉱業資産が接収に遇ったことを契機として、その後は金属製錬、リサイクル、金属加工など下流部門にシフトしていった。

Umicoreは、貴金属精製・リサイクル回収、触媒製造、コバルト・ゲルマニウムといったレアメタル加工品を主要業務とする金属精製・加工メーカーであるが、特に2003年の752mUS\$に上るPMG社買収は触媒製造事業の飛躍的強化のための基礎となった。

2005年以降、中国の合金メーカー等の積極的買収に動いており、欧州を拠点とした生産体制に中国を加えようとしている。また、2005年、銅地金部門を分離したほか、亜鉛地金・合金製造部門も再編を検討中。更に下流部門へのシフトを進める動きを見せている。

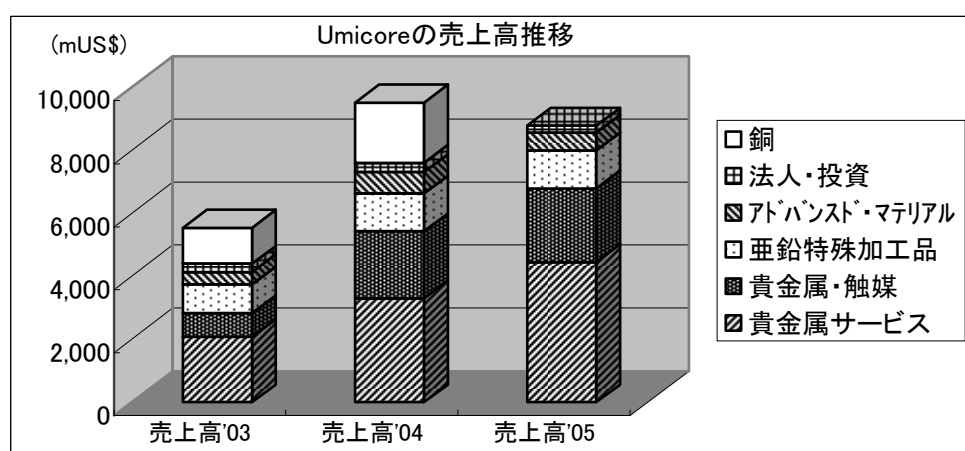
売上高で見ると非鉄メジャーに遜色なく、2005年の8.2bUS\$は、第7位に相当するものの、当期利益(純利益)の売上高に対する割合で見た利益率は低く、この向上を図りつつあるものと見られる。

### <各部門の営業内容の概要>

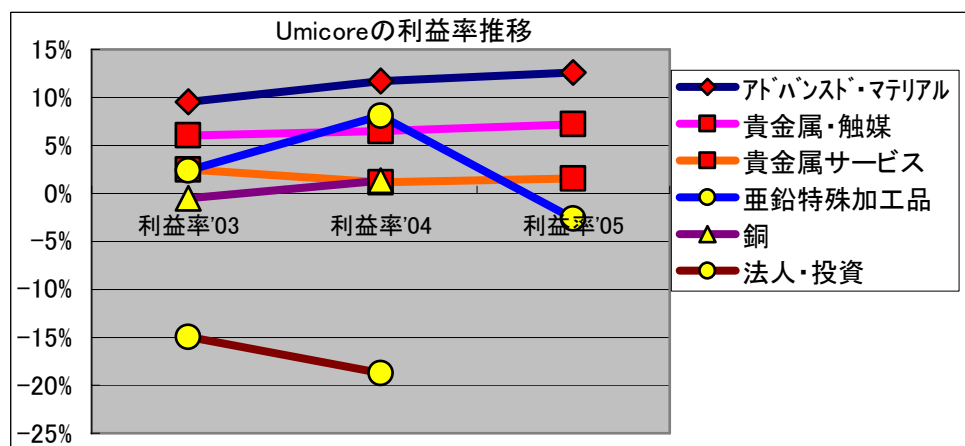
- ・アドバンスド・マテリアル部門: 主にコバルト、ゲルマニウム関連製品と、人工ダイヤモンドの製造(コバルトとゲルマニウムの10%が二次原料)
- ・貴金属・触媒部門: 貴金属製品と自動車排ガス用触媒製造(50%が二次原料)
- ・貴金属サービス部門: 貴金属の回収・委託精製(100%が二次原料)
- ・亜鉛特殊加工品部門: 亜鉛地金精製、亜鉛合金、化学品、建材の製造(30%が二次原料)
- ・銅部門:ブルガリアとベルギーに製錬所、イタリアに加工工場を有したが2005年に分離済み。
- ・法人・投資部門: 関連企業経営、研究開発部門など。

セグメント財務データ(部門別: Euro 決算額を US\$換算、金額単位: mUS\$)

	アドバンスド・マテリアル	貴金属・触媒	貴金属サービス	亜鉛特殊加工品	銅	法人・投資	共同出資者への利益配分	合計
売上高'05	568	2,335	4,461	1,202		219	-615	8,169
営業利益'05	72	168	70	-32		-51	-77	151
利益率'05	12.6%	7.2%	1.6%	-2.6%			12.6%	1.8%
売上高'04	681	2,117	3,310	1,204	1,910	295	-666	8,851
営業利益'04	80	138	39	98	26	-55		325
利益率'04	11.7%	6.5%	1.2%	8.1%	1.3%	-18.7%		3.7%
売上高'03	401	743	2,079	917	1,142	257	-249	5,291
営業利益'03	38	45	52	22	-6	-38		113
利益率'03	9.6%	6.1%	2.5%	2.4%	-0.5%	-14.9%		2.1%



Umicore: 分野別売上高の推移

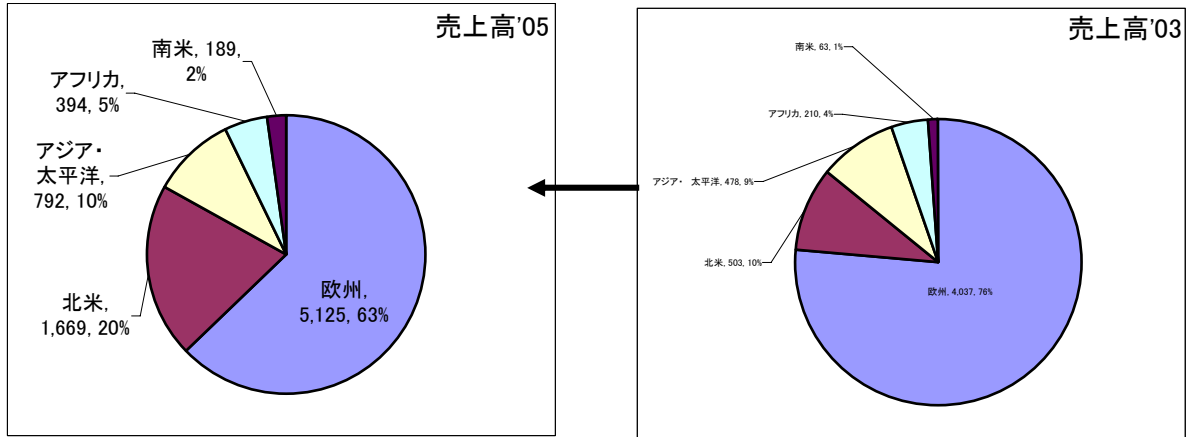


Umicore: 利益率の推移 (※銅事業部門は2004年度に分離)

- ・利益率の低い銅部門は分離され、亜鉛部門も見直しが行われつつある。
- ・注力する部門は“アドバンスド・マテリアル”、“貴金属・触媒”である。
- ・売上高は欧州が主体であるが、北米、アジア・太平洋の伸びが目立つ。
- ・売上高については、貴金属サービスと貴金属・触媒両部門が高水準にあり、また伸びている。
- ・営業利益については、貴金属・触媒両部門が高水準にあり、また伸びている。そのほか、アドバンスド・マテリアルと貴金属サービスも貢献している。
- ・利益率については、アドバンスド・マテリアルと貴金属・触媒両部門が高水準にある。

セグメント財務データ(地域別: Euro 決算額を US\$換算)

	欧州	北米	アジア・太平洋	アフリカ	南米	合計
売上高'05	5,125	1,669	792	394	189	8,169
売上高'04	6,373	1,039	889	398	151	8,851
売上高'03	4,037	503	478	210	63	5,291



Umicore: 売上高の地域別(2005年と2003年の比較)

- ・2003年から05年にかけて、北米の割合が10%から20%に著しく伸びている。